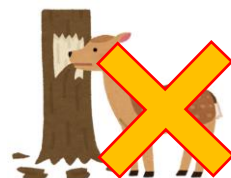


礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



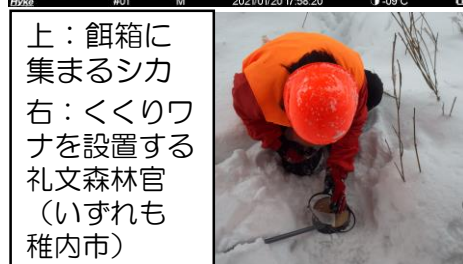
森の作り方 シカ編



森作りには、伐採後の植樹や手入れの他にも、野生動物の被害から守ることも欠かせません。

北海道全土推定67万頭※のエゾシカが生息していると言われています。エゾシカが多いことで苗木や木の皮、農作物を食べてしまう食害が問題になっており、被害額は全道で農林合わせて37.97億円※に及びます。宗谷森林管理署でも1月から2月にかけてくりワナ（踏み抜くとワイヤーでシカを捕まえるワナ）によるエゾシカ捕獲で対策を行っており、礼文森林官も捕獲に参加しました。

礼文島は多様な高山植物が生育していますが、草花を食べるエゾシカが居ないからこそ成立する面もあります。この特別な環境を守る為に尽力したいと思えました。



上：餌箱に集まるシカ
右：くりワナを設置する礼文森林官（いずれも稚内市）

※参考 北海道、令和元年度（2019年度）エゾシカの推定生息数等について
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/est/R2/seisokusu3.pdf>



森林官の道具紹介その② スノーシュー



今回も雪山の見回りには欠かせない重要アイテムの1つ、スノーシューを紹介します。

スノーシューは沈むことなく雪の上を歩くことができる履き物で、前号紹介したゾンメルスキーよりは広く知られていることかと思えます。森林官はゾンメルスキーで山に入るときは、スノーシューも持って行くことがあります。なぜならゾンメルスキーは、スピードに優れますが細かい操作が難しく、急傾斜では転倒する危険があるからです。急傾斜の林内で作業する時は、無理にスキーを使わず、小回りの効くスノーシューに履き替えることで、安全を確保しています。



上：スノーシュー
右：ゾンメルスキー